

よりよい学校づくりをめざして

～令和4年度 学校生活アンケート（12月実施）を通して～

評価基準 S評価：90%以上が肯定的評価（95%以上はS+と評価。以下A+、B+等も同様）
 A評価：80%～90%未満が肯定的評価 C評価：60%～70%未満が肯定的評価
 B評価：70%～80%未満が肯定的評価 D評価：60%未満が肯定的評価

■ アンケート結果 ～「笑顔いっぱい がんばりいっぱい 輝きいっぱい」を実現するために～

昨年度と比較してポイントの増減…+1.5◎ +1○ +0.5～±0 - -0.5△ -1□ -1.5▲

No.	アンケート項目 それぞれへの質問は概ね次のような聞き方をしています 保護者への質問・・・お子さんはどうか？学校はどうか？ 児童への質問・・・自分はどうか？学校はどうか？ 教職員への質問・・・手立てを講じているか？	保護者			児童			教職員		
		R3	R4	増減	R3	R4	増減	R3	R4	増減
1	学校生活が楽しい	S	S	-	S	A+	△	S	S+	-
2	友達と仲良く過ごす	S	S	-	S+	S	△	S+	S+	-
3	家族・近所の人への挨拶	A	B	□	B	A+	◎	S+	S+	-
4	授業はわかりやすい	A+	A+	-	S+	S+	-	A+	S	-
5	少人数指導、一人一人に合った教え方	/	/	/	S	S	-	S	S	-
6	毎日すすんで宿題に取り組む	C+	C+	-	A+	A+	-	S	A	□
7	すすんで本を読む（指導）	D+	C+	○	B+	B	△	A	B	□
8	言葉遣いに気を付ける	/	/	/	B+	B+	-	S+	S+	-
9	社会のルール・マナー（の指導）	S	S	-	B+	A	-	S+	S	△
10	早寝早起き・心身の健康・基本的生活習慣	A	A	-	A+	A	△	A+	A+	-
11	命を大切にする心・豊かな心（の育成）	A+	A+	-	S+	S+	-	S	S	-
12	体力づくり（の指導）・実践	B+	C+	□	A	A	-	B+	A+	○
13	教育相談（相談しやすい体制）	B+	B+	-	S	S	-	S	S	
14	いじめ・けんかの指導、心の悩みへの対応	B+	A	-	B	A	○	S+	S	△
15	児童の自主性・社会性（の育成）	/	/	/	S	S	-	S+	S+	
16	掃除や係の仕事（の指導）	/	/	/	S	S	-	S+	S+	
17	よさや努力を認める（指導）	/	/	/	S	S	-	S+	S+	
18	交通安全意識（指導）	S+	S+	-	S	S+	-	S	A+	△
19	通学のきまり・登下校（指導）	/	/	/	S	S	-	A	S	○
20	地震・火災・不審者（指導）	S	S	-	S+	S+	-	/	/	/
21	授業公開・学校行事	A+	A+	-	/	/	/	/	/	/
22	学校からの情報発信	A+	A+	-	/	/	/	/	/	/
23	保護者・地域からの要望に応える	A	A+	-	/	/	/	S+	S+	
24	家庭への連絡のきめ細かさ	A+	A+	-	/	/	/	/	/	/
25	知識・技能・自分で考え行動する力の育成	A+	A	△	/	/	/	S	S	
26	協調性・思いやり・感動する心の育成	A+	A+	-	/	/	/	S	S+	/
27	体力・健康に生活する意識の育成	A+	A+	-	/	/	/	A	S+	/

2 アンケート結果からみた成果と課題及び今後の取り組み

◎3「授業はわかりやすい」保（A+）児（S+）

※保：保護者評価 児：児童評価

子どもたちの学習意欲が高まり、わかりやすい授業にするために、教材の工夫、板書、タブレットの活用などに力を入れて取り組んできました。今後、さらなる改善を図ってわかりやすい授業づくりをめざしていきます。

◎14「いじめ・けんかの指導、心の悩みへの対応」保（A）児（A）

いじめやけんか等のトラブルが発生した場合は、双方から話を聞いたうえで事実確認をし、保護者の方への連絡をするような対応をしてきました。また、お子さん自身の悩みについては、生活サポート担当や教育コーディネーターが中心となり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他の関係機関につなぐ対応もしてきました。今後、さらに充実を図りつつ、「教育相談」の項目ともS評価となるように取り組んでいきます。

●1「学校生活が楽しい」保（S）児（A+）

昨年度より数ポイントですが、児童の評価が下がっています。数字の下降はわずかですが、楽しく通うことができている子の存在をきちんと受け止め、上記の項目と同様、個に応じたサポートを充実させていきます。

●6「毎日宿題にすすんで取り組む」保（C+）児（A+）

宿題については、毎日継続して取り組めるように声かけ等を行っていますが、さらなる工夫が必要と考えています。家庭学習の内容や方法・量について、学校家庭間で協議し、さらに向上していけるよう努めていきます。

●7「すすんで本を読む」保（C+）児（B）

学校では、毎日の朝読書を継続するなかで、読み聞かせボランティアの方の協力もいただきながら取り組みを進めていますが、教職員の評価にもある通り、さらなる工夫が必要と考えています。今後、子どもたちが進んで読書に取り組めるよう、家庭での協力も併せてお願いいたします。

3 アンケート自由記述より

○子どもだけではなく、保護者にも声をかけてくれていて助かっている。特に毎朝、門であいさつと声かけをしている姿は子どもたちにとってよいことと思う。

●学習の遅れがある子の補習クラスがあるとよい。授業（特に算数）についていけないので、少人数での学習を切望する。

→算数を中心とした複数教員による少人数指導をより充実させていきます。複数教員が配置できない学年は、単元まとめのような場を活用し苦手な子へのサポートを検討します。

●宿題が多すぎる気がする。習い事もさせているので、負担になっている。自分で好きなことを見つけられる教育が理想である。

→宿題については、音読、漢字、計算等の基礎的な習熟を目的とした内容となっておりますが、お子さんにとって過度な負担になっているようなら個別に担任へ相談をしてください。

●道路や駐車場で遊ばない、自転車に乗るときはヘルメットをかぶること、通学路を守って下校すること等を今一度徹底させて欲しい。

→地域の方からも下校時に危ない場面が見かけたという声もいただいていますので、折に触れて繰り返し指導を継続していきますので、ご家庭でも同様の指導をお願いいたします。

ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケート結果については、ホームページでもご覧になれます。今後も、「開かれた学校づくり」を進めていきます。ご理解とご協力をお願いいたします。